

資生堂 女性研究者サイエンスグラント 第19回受賞者決定

研究活動とキャリア形成を支え、次世代の指導的役割を担う女性研究者を後押し

**SCIENCE
GRANT****SHISEIDO FEMALE RESEARCHER**

株式会社資生堂(以下、資生堂)は、「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」(以下、本グラント)の第19回受賞者10名(総応募者数137名)を選出し、2026年7月24日(金)に資生堂グローバルイノベーションセンターにて授賞式を開催します。

本グラントは、「次世代の指導的役割を担う女性研究者を支援することは科学技術の発展につながる」という考えのもと、自然科学分野の幅広い研究テーマ(理工科学系・生命科学系全般)を対象に、2007年度の設立以来、毎年最大10名の女性研究者へ研究助成を実施しています。主な特長としては、受賞者に贈られる各100万円の助成金を研究活動と出産・育児等のライフイベントを両立するための環境整備(学会参加の際の託児費用や研究補助員の雇用等)にも柔軟に活用できることが挙げられます。また、本グラントを通じた受賞者同士の交流が、その後の研究活動やキャリア形成のサポートにもなっています。

日本のSTEM^{※1}領域におけるジェンダー・ギャップ解消への課題認識が高まる中、当社は女性研究者の研究継続やキャリア形成の支援を通じ、科学技術の発展とサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

※1 Science, Technology, Engineering and Mathematics

女性研究者の現状と本グラントの役割

日本において研究者全体に占める女性の割合は19.0%^{※2}と増加傾向にあるものの、諸外国と比較していまだ低い水準にとどまっています。近年、ライフイベントとの両立を支援する仕組みの整備や、女性限定ポストの増加など、女性研究者の働く環境を支える制度は徐々に整いつつあります。しかしその一方で、大学の教授や学長といった研究組織の意思決定の場に関与する女性の割合は、依然として少ない状況が続いています。

資生堂はこうした現状を踏まえ、将来指導的立場を目指す意欲がある女性研究者を支援することを目的に、2007年に本グラントを設立し、活動を続けてきました。本グラントは助成金の贈呈に加え、受賞者同士のネットワーク構築や先輩研究者との対話の機会創出など、研究継続とキャリア形成を後押しする取り組みにも注力してきました。過去の実績からは、本グラントがキャリア形成への意欲向上や、研究継続への自信につながっているといった声が寄せられています。

また、本グラントの過去の実績のうち、現在キャリアの中核を迎えた研究者の半数以上が指導的立場^{※3}で活躍しており、これまでの本グラントの実績全体では、文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞した研究者が20名以上^{※4}いるほか、さまざまな賞を受賞していることが確認されています。これらは研究者自身のたゆまぬ努力と研鑽によるものですが、本グラントが掲げる「次世代の指導的役割を担う女性研究者の支援」という目的が、確かな歩みとともに形になりつつあることを示しています。

※2 総務省2025年(令和7年)科学技術研究調査結果(<https://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka/youyaku/pdf/2025youyak.pdf>)

※3 資生堂による追跡調査において、機関の長または教授相当

※4 本グラント受賞前および受賞後の実績を含む、資生堂による追跡調査

今後の展望

女性研究者がさらに活躍の場を広げ、日本の科学技術が発展していくためには、研究組織の意思決定層に多様な視点が取り入れられることが重要です。また、研究現場において多様性を尊重する土壌を育んでいくことも求められます。こうした課題意識のもと、今年度の授賞式では文部科学省や元科学技術振興機構の有識者、また実際の現場で活躍する研究者など多様なステークホルダーが登壇し、産官学それぞれの視点から女性研究者の活躍に必要なアプローチについて多角的に議論します。資生堂は今後も、行政やアカデミアとの連携を深めながら、女性研究者がさらに活躍できる環境づくり後押し、研究領域におけるダイバーシティの推進と日本の科学技術の発展に貢献していきます。

授賞式・研究報告会概要

名称	資生堂 女性研究者サイエンスグラント式典2026 テーマ「行政、アカデミア、企業、それぞれの視点から女性研究者活躍のために必要なことを考える」
日時	2026年7月24日(金)10:15～18:30
会場	資生堂グローバルイノベーションセンター3Fホール(神奈川県横浜市西区高島1-2-11)
第19回 授賞式	◆挨拶、受賞楯授与 株式会社資生堂 取締役 代表執行役 社長 CEO 藤原憲太郎 ◆来賓挨拶 文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 人材政策推進室長 相原恵子様 ◆基調講演 国立研究開発法人科学技術振興機構 前プログラム主管 山村康子先生 ◆祝辞 株式会社資生堂 ディビジョンオフィサー グローバルブランドプレジデント グローバルプレミアムブランド 富田千晶 ◆審査講評 株式会社資生堂 執行役 チーフオフィサー チーフイノベーションオフィサー グローバルテクノロジーオフィサー 東條洋介 ◆受賞者OG講演 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授/研究科長 佐藤春実先生 ◆社外審査員講演 東京大学大学院工学系研究科マテリアル工学専攻 教授 近藤高志先生 ◆第19回受賞者 受賞コメント
第18回 研究報告会	◆第18回本グラント受賞者9名による研究発表及び討論 ◆懇親会

第19回受賞者一覧

研究助成期間:2026年6月～2027年5月

氏名	所属	職位	研究分野・受賞研究テーマ (研究の概要)
いわい 岩井 まな 愛 	北海道大学大学院 工学研究院 応用化学部門	助教	【表面科学 / 電気化学】 ゲル・半固体電解液を用いた環境調和型 アノード酸化技術の創出 (アルミニウムの表面を「きれい」「長持ち」 にするための新しい方法を提案)

かきはら 笠原 朋子 	理化学研究所 開拓研究所	特別 研究員	【分子生物学 / 老化学】 RNA 制御による老化の逆転と健康寿命延 伸(遺伝子の「スイッチ」を操作して、細胞 の老化を巻き戻す研究)
かたやま 片山 なりこ 奈理子 	慶應義塾大学 保健管理センター / 医学部 精神・神経科学教室	准教授	【精神医学/認知行動療法/脳画像研究】 「ことばの治療」は脳を変えるかの科学的 解明 ～なぜ認知行動療法が効くのかを脳のシ ナプスから説明する研究～ (PET 画像を用いて、認知行動療法が脳 内にどのような変化をもたらすのか分子レ ベルから明らかにする研究)
ぐお 郭 ゆあんゆあん 媛 元 	東北大学 学際科学フロンティア 研究所	准教授 (国際卓越 研究者)	【ものづくり技術(機械・電気電子・化学工 学) / 計測工学 / ライフサイエンス / 生体 材料学】 熱延伸多機能ファイバによる脳-臓器間電 気化学信号の統合解析 (「金太郎飴」のような多機能ファイバで読 む脳と体の電気・化学信号)
そん 孫 ゆり ユリ 	北海道大学 遺伝子病制御研究所 幹細胞生物学分野	講師	【生命科学 / 分子内分泌学】 閉経周辺期における脂肪組織局所エスト ロゲンの機能変容 (閉経前後のホルモン変動が脂肪の働き を変え、代謝健康に影響する)
ちえん 陳 ちゆんいー 君怡 	東京科学大学 フロンティア材料研究所	准教授	【環境・エネルギー材料 / 電気化学 / ナノ 材料化学】 二機能性ヨークシェル電極触媒による高 付加価値化学品と水素の共生成 (ナノ材料触媒を用いた水素エネルギーと 高付加価値化学品の同時生成技術の開 発)
ひらた 平田 えり 恵理 	北海道大学大学院 歯学研究院 口腔機能補綴学教室	助教	【バイオマテリアル、補綴歯科学、歯科理 工学、ナノマテリアル】 透明ナノファイバーを用いた次世代骨再生 用膜の開発 (歯を失い骨が少なくなった部位の骨再生 を助け、美しい笑顔のための天然由来の 透明ナノファイバー膜を開発する研究)

ふじかわ 藤川 りさこ 理沙子 	福岡大学薬学部 臨床疾患薬理学	講師	【神経科学】 脳の自己回復力を支えるミクログリアの探索とアルツハイマー病治療への展開(脳の免疫応答細胞ミクログリアを制御し、脳の回復力を引き出して認知症に立ち向かう)
みなかわ 皆川 さとこ 智子 	弘前大学 医学部附属病院 検査部	助教	【臨床検査医学 / 漢方 / 皮膚科学】 生物学的製剤で治療中の乾癬患者において Paradoxical な反応を示すバイオマーカーの探索 (薬剤による Th バランス変化と乾癬のパラドキシカル反応を血中サイトカインで解析し治療指標を示す研究)
やぎ 八木 なおみ 直美 	兵庫県立大学 先端医療工学研究所	准教授	【医用工学】 スマート生殖医療が導く個別化胚移植ナビゲーション技術の創出 (経験を科学へ。AI 解析による個別化胚移植ナビゲーションで、生命誕生の幸福を確かなものにする)

敬称略、氏名五十音順

以上